

発表者

野口紗生氏

ご質問①

○音環境が大きな影響を及ぼすことを改めて実感しました。興味深いご発表をありがとうございました。

1. A組とB組とで部屋交換をされたとのことですが、部屋の作り（家具や教材等の配置）の違いはどのくらいあったのでしょうか。子どもの動きや遊び方、保育者の子どもの様子の捉え方に影響があるものと思い、お聞かせください。
2. 支援者のインタビューでは、主に子どもの反応の変化への言及されていましたが、支援者側から子どもの声が聞きやすくなったとか、子どもの様子が把握しやすくなった等のお話はありましたでしょうか。

どうぞよろしく願いいたします。

ご回答①

ご質問ありがとうございます。以下にご回答させていただきます。

1. 部屋の作り（家具や教材の配置）は、A組・B組とでほとんど同じで、机の配置や遊具の選定などは毎日に調整されていたという状況でした。なお2クラスを支援者8名で共同で担当されており、活動方針含め全体で共有しながら進められておりましたので、支援者側の状況としては2クラスでほぼ同様、と考えられると思います。

2. 今回の支援者へのインタビューでは、子どもの声の聞き取りや様子の把握のしやすさについての回答は捉えられませんでした。支援者への影響との観点で関連するものとして、「耳が痛くなくなった」との音環境の改善に伴って「落ち着けるようになった（吸音材がない場合は落ち着きにくかった）」といった、「子どもの落ち着かせやすさ」についての回答は得られました。その他に印象に残った回答として、「（響きの違う環境で子どもと関わることを通して）自分の声大きい、子どもには穏やかに話した方が伝わる、ということに気付いた」とのお話があり、支援者にとっての音環境の意味についての重要な指摘と受け止めております。なおインタビュー内容については、引き続き分析を続けて参ります。